

飯伊地区 産業経済動向

No.499 2020/10
(2.11.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,260	枚	△	7.4 %	△	26.2 %
	金額	3,214,705	千円	△	21.6 %	△	2.5 %
うち不渡発生状況	枚数	1	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 13 枚)	
	金額	370	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 12,258 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上) (9月)	県内	6	件	(前月 8 件)		(前年同月 7 件)	
	飯伊	0	件	(前月 1 件)		(前年同月 3 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(9月)		65	戸	△	35.0 %	△	7.1 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(9月)		1.04	倍	(前月 1.00 倍)		(前年同月 1.45 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,214	台	△	19.3 %		23.3 %
	中古車	787	台		2.6 %		3.4 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (9月)	新車	4,899	台		45.1 %	△	15.9 %
	中古車	997	台		13.2 %		1.8 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	104,833	台		7.9 %	△	7.3 %
	出	106,075	台		8.2 %	△	7.4 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	78,975	台		10.3 %	△	2.6 %
	出	77,772	台		11.1 %	△	0.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	20,930	台		33.9 %		20.7 %
	出	21,271	台		36.7 %		23.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	45,391	台		12.9 %		3.3 %
	出	45,548	台		13.4 %		1.9 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		213	件	△	9.4 %		43.9 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2	件	(前月 1 件)		(前年同月 1 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	7,317	人		23.0 %	△	60.9 %
	飯田～名古屋	7,335	人		24.3 %	△	61.8 %
	飯田～長野	4,234	人		18.9 %	△	52.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	4,778	人		33.2 %	△	70.1 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,291	人		16.2 %	△	8.4 %
	右回り	3,038	人		8.3 %	△	16.0 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性油型インキ
[フチユラリス100] を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

10月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス13.8で、前月から21.9ポイント上昇。翌月予測もマイナス18.5で、前月から3.7ポイント上昇。

電気、精密機械器具の売上は、前月比横ばい～やや増加。前年比は減少との声もあるが、総じて景況感に動きは見られない。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、横ばいとの声が多い。前年比は、微増との声が複数。産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、業者によって増減分かれるも、増加との声がやや多い。設備向けが動かないとの声が複数聞かれた。建築用金属製品の販売は、前月比、前年比とも増加も、受注が「落ち込んできている」こともあり、景況感は悪化との声。自動車向け部品の販売は、前月比減少。前年比は増加も、景況感を左右するには至らないとの声。小型電磁機器の生産は、前月比おおむね横ばいも、景況感は好転との声。先行きも良好という。FA関連モーターの売上は、前月比、前年比ともやや増加。受注は、前月比概ね横ばいも、前年比やや減少との声。光学機器部品の販売は、前月比やや増加も、前年比は減少も、景況感の悪化には至っていないとの声。電気、電子製品の売上は、前月比やや増加も、景況感の好転には至らないという。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比では減少との声が多く、「悪くなっている」など景況感が悪化した業者も少なくない。正月飾りの受注状況が明らかになり始めた水引製品の受注は、一部に減少との声もあるが、やや増加との声が多い。「昨年と変わらない受注量で一安心」などの声が寄せられた。漬物の販売は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばいという。

建設業

9月の建設業の景況DIは16.7で、前月から1.3ポイント上昇。翌月予測DIはマイナス15.4で、前月から2.1ポイント低下。

当月の受注残高の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声は引き続き多い。減少したとする業者にあっても「工事は前年並みにある」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は多くはない。

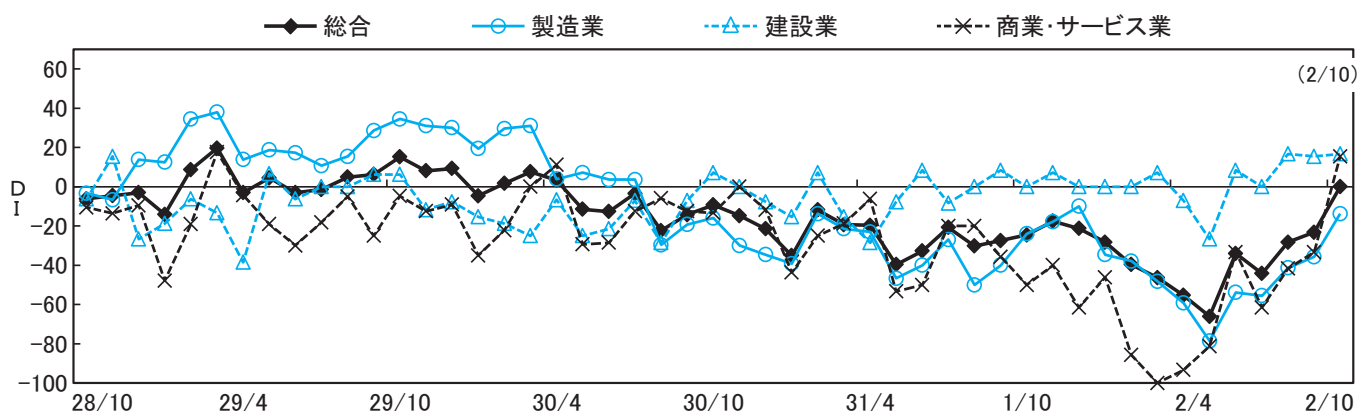
当地区の9月の住宅着工戸数は65戸。前月比35%減少、前年比も7%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。住宅以外の一般民間建築について、「小型、中型のものが年内に完成すると、後は小さいものしかない」「コロナの影響で冷え込んでいる感」などの声が聞かれた。

商業・サービス業

9月の商業、サービス業の景況DIはプラス15.4で、前月から48.7ポイント上昇。翌月予測DIはマイナス42.9で、前月から2.9ポイント低下している。

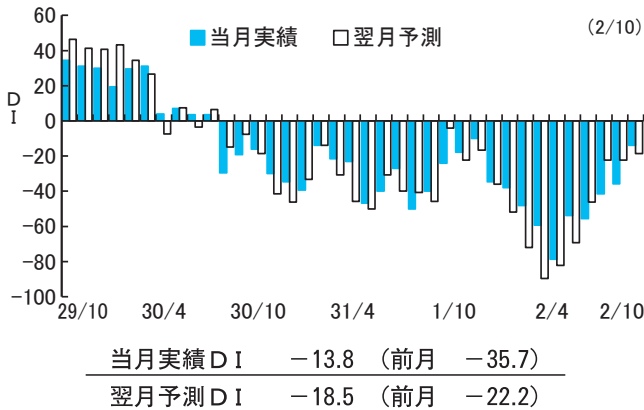
食料品の売上は前月比、前年比ともに、業者により増減分かれるが、景況感が好転した業者は見られない。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感は悪化との声。電化製品の売上は、前月比、前年比とも増加という。OA機器の売上は、前月比、前年比とも減少との声。衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。市内料理店からは、前月比、前年比とも増加との声。市内宿泊施設の売上は、前月比、前年比とも増加、「GoToトラベルで観光目的の宿泊は増えた。そうした部分もあるが自社努力も大きかった」といった声が寄せられた。昼神温泉の売上は、前月比増加。前年比は、概ね横ばい～増加。「GoToトラベルで東京も対象に加わったほか、遠隔地への修学旅行ができない学生さんの宿泊もあり、賑やかさが戻ってきた感」などの声が聞かれた。タクシーの売上は、前月比増加も、前年比は減少という。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）

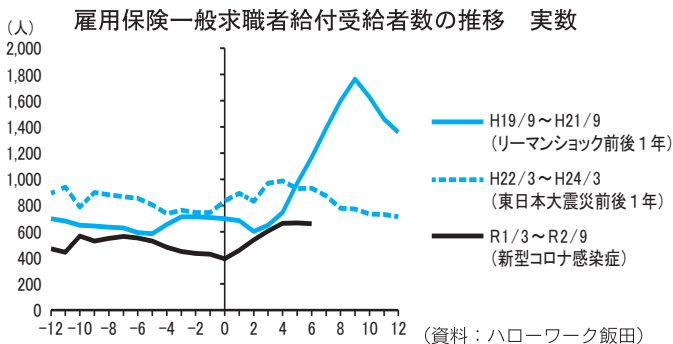


当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス13.8で、前月から21.9ポイント上昇。翌月予測もマイナス18.5で、前月から3.7ポイント上昇。

【コロナ禍における当地域の雇用関連統計】

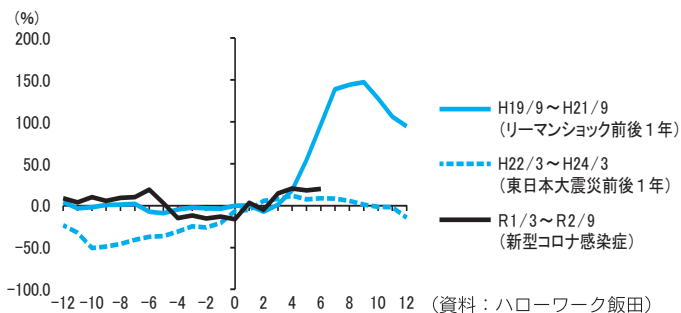
目下は第三波も警戒されるコロナ禍だが、今回は、コロナ禍の中で当地域の雇用関連統計がどのように推移したのか、平成20年9月のリーマンブラザーズ破綻前後や東日本大震災のあった平成23年3月前後と比較しながらご紹介する。

まず、雇用保険一般求職者給付受給者数を見ると、本年3月を境に受給者数は増加に転じ、本年3月以前の水準に比べると高い水準にある。本年6月に600人を超えたのだが、前回受給者数が600人を越えたのは平成28年8月だった。とはいえリーマンブラザーズ時、平成21年6月に1,764人を数えたのに比べれば、水準は低いといえるだろう。また、東日本大震災の前後1年間の受給者数と比べても低い水準にある。



とはいえ、リーマン時、東日本大震災時と今とでは、労働者数など環境に違いがあることも考えられるので、

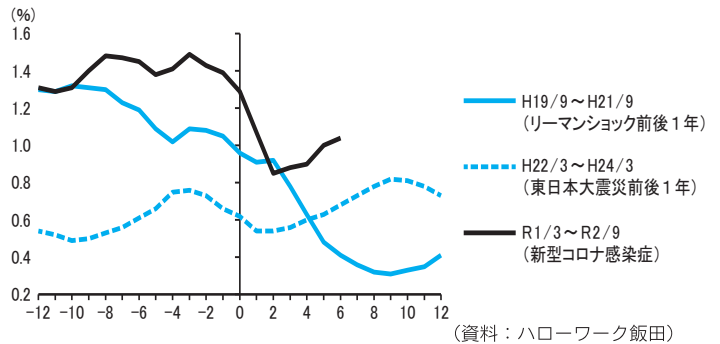
雇用保険一般求職者給付受給者数 対前年増減率の推移



雇用保険一般求職者給付受給者数の推移を前年増加率でみると、やはり本年3月以降前年増加率が上昇しており、本年9月はプラス20%となっている。しかし、リーマンブラザーズ破綻時は、破綻6ヵ月後に97%増加していたのに比べれば増加率は小さい。

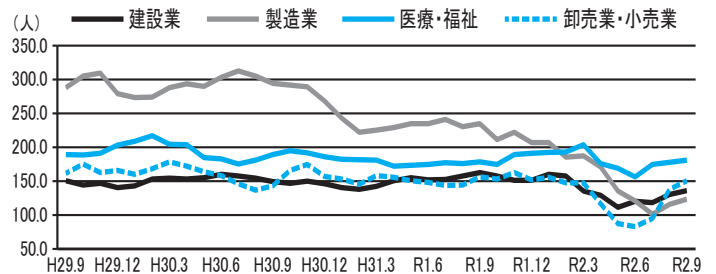
有効求人倍率（パートを含む実数）の推移を見ると、やはり本年3月を境に急速な落ち込みを見せたといえるだろう。とはいうものの本年5月から上昇基調に転じ、9月現在は1.04となっている。

ハローワーク飯田管内 有効求人倍率（パートを含む実数）の推移



グラフにないが、有効求人倍率の低下は、有効求職者数の減少よりも、有効求人数の減少によってもたらされている。そこで、当地域で求人数の多い4業種について新規求人数の推移を見ると、4業種で本年3月を境に求人数を減らしたが、なかでも製造業の新規求人数の減少が最も大きく、回復も緩やかなものとなっている。

ハローワーク飯田管内 業種別 新規求人数の推移 (3ヵ月移動平均)



機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上は、前月比横ばい～やや増加。前年比は減少との声もあるが、総じて景況感に動きは見られない。先行きに関し、受注の増加を見込む声もあれば、減少を見込む業者も見られるが、いずれも大きな動きではない様子。こうした中、雇用面、設備面で積極的な声は聞かれない。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、横ばいとの声が多い。前年比は、微増との声が複数。景況感、悪化した業者は見られないものの温度差はあり、「8、9月が底で、当月から回復傾向。半導体の回復に伴い在庫の底上げ」との声や、「まずまずの製品もあるが、装置関連の一部や、FPDなど調整している部分もある。コロナ禍で先行きに不透明感があり、増減が激しい」などの声も寄せられた。先行きに関する見方も分かれ、「12月位から増加見込み」など上向きとの声の一方、「3月くらいまでは厳しい」との声も。こうした中、雇用面で「1名補充。新卒者の採用を複数名予定」「当面現

状維持も、長期的視野に立って補充を予定」など積極的な声が複数ある。

産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、業者によって増減分かれるも、増加との声はやや多く、「一部増加」「試作が一段落。月末から急に受注が増え始めた」「多少大口が動いた」「8、9月が底となった客先が出てきた。当社でも、前年比減少の状態が続いているが、微増傾向にある。客先の情報では中国向けが動き出している」などの声。とはいえ、「産業機械関連は低めで春先まで続きそう」「設備向けはまだまだ。海外が動かないと良くならない」「コロナの影響で、菓子製造機器が全く動かない」など、設備向けの製品が動いていないとの声は多い。「増加傾向が続くかは不透明」「一時的に良くなったが、全般には悪い」「現時点で特に大きな変化もなく、成り行きを注視しつつ見守っている状況」「先の見通しが立たず、きわめて不安」など先行きの不透明感は未だ強い。

こうした中、雇用面で「間接部門の帰休日を1日減らす予定。加工現場でも最小限の帰休対応にする」「1名補充したい」「1名増やす予定」など積極的な声も。製品単価に関し、依然「相見積が多くコストダウン要求は厳しい」との声が聞かれた他、「コストを見直して単価上昇を見込む」などの声が寄せられた。

建築用金属製品の販売は、前月比、前年比とも増加も、受注が「落ち込んできている」こともあり、景況感は悪化との声。「今月までまあまあだったが、先行きは不透明」という。

自動車向け部品の販売は、前月比減少。前年比は増加も、景況感を左右するには至らないとの声。先行きも大きな動きは見込まれていないという。

小型電磁機器の生産は、前月比概ね横ばいも、景況感は好転との声。先行きも良好という。

FA関連モーターの売上は、前月比、前年比ともやや増加。受注は、前月比概ね横ばいも、前年比やや減少との声。景況感の悪化には至らないものの、「コロナによる世界経済への影響が長期的に懸念される」など先行きの不透明感は続いている様子。

光学機器部品の販売は、前月比やや増加も、前年比は減少との声。景況感の悪化には至っていない様子。先行きは弱含みという。

電気、電子製品の売上は、前月比やや増加も、景況感の好転には至らないとの声。先行きに大きな動きは見込まれていない様子。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前年比やや増加との声もあり、こうした業者からは「新製品の投入の効果」との声も。とはいえ、前月比では減少との声が多く、「悪くなっている」「苦しい状況が続いている」「土産物市場も少しだけ戻っているが、前年の7割程度」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者も少なくない。先行きは、時期的なこともあって増加を見込む声も聞かれたが、こうした業者でも不透明感が残るという。雇用面で余剰感を指摘する声も。

正月飾りの受注状況が明らかになり始めた**水引製品**の受注は、一部に減少との声もあるが、やや増加との声が多い。「昨年と変わらない受注量で一安心。今後ますます加速するだろう量販店の統合、再編は、当社の売上への影響も大きい。営業力を強化し取引深耕を図っていきたい。また、量販店への出荷時期が年々早

まっている」「正月飾りの注文は例年通り」「昨年と変わりはないとの声が多い」などの声が寄せられた。一方、「その他の祝事、仏事は低迷。冠婚葬祭軽視の風潮だが、生活のゆとり、気持の安定につながる文化は消滅すると戻ってこない。コロナ禍の今こそ団結して進む必要を感じる」との声も。売上は減少～横ばいとの声が多いが、一部に「当月の納期指定が多く、入荷も多かったため結果的に売上は増加」との声も。しかし、こうした業者でも「先行きは不透明」という。原材料、資材に関し、「昨年と異なり今年台風もなく、輸入品の入荷は順調だった」という。

漬物の販売は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい、「業務用、輸出なども今までより動き始めた感はあるが、このまま続くかどうか」との声が寄せられた。原材料に関し「秋口に入り安定してきたと思われる」という。

その他製造業

食品包材の生産は、前月比やや減少も、先行きは増加を見込んでいるとの声。当月原材料、資材価格がやや上昇という。

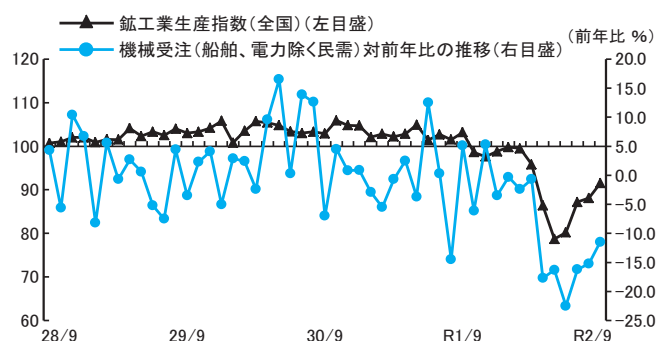
印刷、出版関連の売上は、前月比やや増加、前年比は減少との声。「相変わらずイベントの中止が続いている。開催された場合でも集客を制限しており、頒布部数が減少している」との声が寄せられた。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

衣料品の販売は、前月比減少も、前年比増加との声。コロナ関連需要については、「医療用ガウン等の生産が大幅に減少。マスク需要もピークを過ぎ、ファッション性の高いものに移行するとともに、ロットも細かくなってきている」という。先行きに関し、「来年7月くらいまでの受注は、例年の2割程度しかないのでは。百貨店を始め小売がストップした影響が大きい。ネット販売も、外出ができず着る機会がないため、外出着、スーツを中心にほとんど売れていない」との声が聞かれた。

【企業からのコメント】

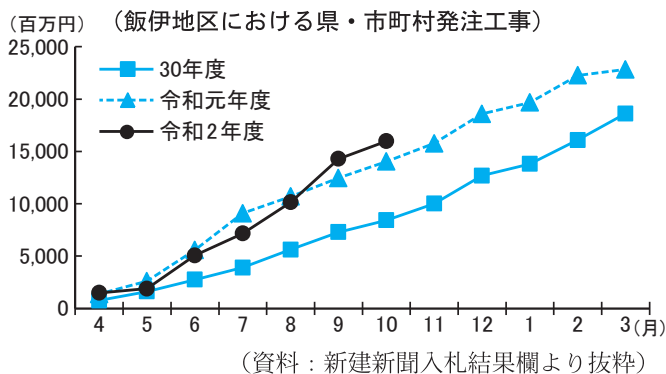
- ★コロナ第三波やインフルエンザの予防策や今後の発生状況を危惧している。
- ★全般にコロナ禍からの浮上が見られない。ワクチン開発が待たれる。
- ★同業の中には、廃業を考えている工場も多く見られるようになってきている。
- ★本格的に対面での商談も始まった。
- ★内製化を進めている。
- ★民間航空機向けの仕事は激減しているが、特定の製品で動きが出てきている。

機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

入札額累計の推移



当月景況DI 16.7 (前月 15.4)

翌月予測DI -15.4 (前月 -13.3)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約18.3億円、前月比46%減少も、前年比は17%増加している(11月19日調査時点)。

当月の受注残高の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声は引き続き多い。減少したとする業者にあっても「工事は前年並みにある」「建設関係は良いと思うが、全体的な経済状況が良いとはいえないと思われる」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は多くはない。「受注残高が少ない傾向が続いている。今後の通常発注の他、災害工事も受注の機会としたい」「土木は、災害復旧工事で三遠南信自動車道工事、リニア関連工事で忙しい」「災害関連工事に加え、今年は地元の大型案件も複数受注できている」「多くの業者で受注増加。十分な仕事量」「受注残は前年比増加」「建築工事は非常に少ない。特に大型のものが無い」「公共の建築工事は、年内に完成できる小型のものだけ」などの声が聞かれた。

先行きに関し、弱含みとの声も複数あるが、「災害の査定が終わり、今後発注になる工事もある。不調、不落も発生するのでは」「今年度末までの仕事量は確保」など、現状の繁忙が続くとの見方も多い。また、「12月くらいになると新年度の様子が見えてくるが、仕事が少なくなりそうな感」との声が聞かれた。

完工高については、前月までの旺盛な発注の影響もあり前月比増加、ないし先行き増加を見込む声が多い。

設備面で、一部に「手控えている」との声もあるが、通常の更新等が続いているとの声が多い。「7月の豪雨災害で大幅に更新する必要が生じた」との声も。

民需

当地区の9月の住宅着工戸数は65戸。前月比35%減少、前年比も7%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。

住宅では、「新築は、まだ何とか続いているという感。リフォームは小さいものがぼつぼつある程度」「リフォーム、修繕工事のみ」などの声。

また、住宅以外の一般民間建築については、「小型、中型のものが年内に完成すると、後は小さいものしか

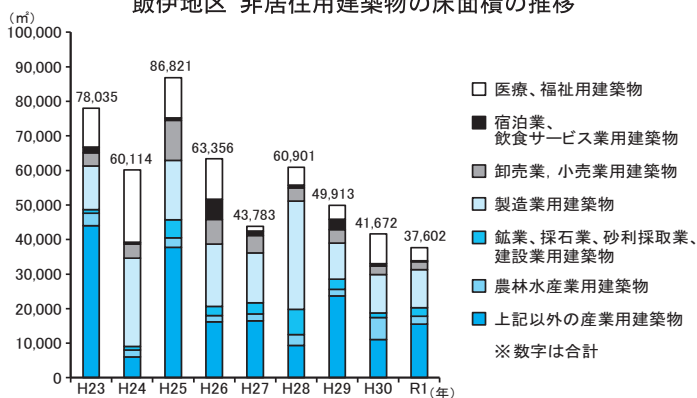
ない」「少ない」「コロナの影響で冷え込んでいる感」などの声が聞かれ、先行きに関しても「来年の建築の仕事は、一般、公共ともに見通せない」との声が寄せられた。

こうした中であっても、「職人は、年末のせいとか、それともそもそも減ってしまっているのか、いない」「不足」などの声が依然聞かれる。

【飯伊地区の非居住用建築物工事床面積の推移】

国土交通省の建築物着工統計では、建築主から提出される建築届を基に、建築物の数、床面積の合計、工事費予定額などを集計している。これによって飯伊地区の作業場(工場)、倉庫、店舗といった非居住用建築物の建築床面積の推移をみると、平成31年の製造業用建築物の建築床面積合計は11,051㎡で、ほぼ前年並みだった。非居住用建築物全体では37,602㎡で、前年に比べ10%減少している。

飯伊地区 非居住用建築物の床面積の推移



建設資材

建設資材、塗料等の売上は、前月比やや増加も、前年比やや減少、景況感は横ばいとの声が寄せられた。先行きは弱含みという。当月、仕入価格がやや上昇しており、この傾向は続く見込みという。

当月の生コンの売上は、前月比は業者により増減分かれるも、前年比は増加。一部に景況感が好転した業者も。当月の主な出荷は、「三遠南信自動車道工事、発電所工事、砂防工事、治山工事、築堤護岸工事、マンション、保育所工事に関わるもの」で、「リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の4%弱」だったという。「地域内では出荷のある工場、ない工場分かれるが、当工場としてはそれなりの出荷」などの声。こうした中、「機械修理も増えている」「生コン車のレンタル業者からのDMが多い」「生コン車の運転手は依然不足」などの声が聞かれた。

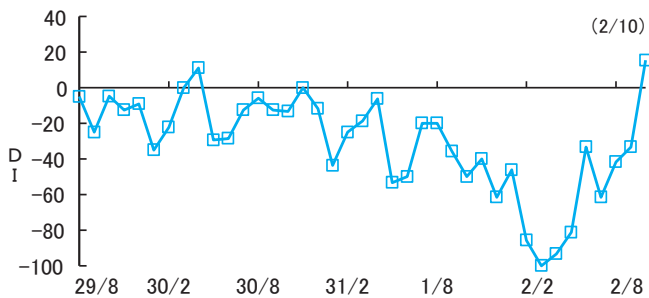
骨材の売上は、前月比は業者により増減分かれるも、前年比は増加。「今月は特別に出荷が多かった。生コン向けが増えている」「生コン向けが活発になってきた」などの声。先行きの見方は分かれる。

【企業からのコメント】

- ★現状コロナ対策もあり資金繰りは容易だが、その後はどうなるだろうか。
- ★コロナの影響は多方面にわたっており、今後の景気に影響があるのでは。年末に向かい明るい兆しを見たいもの。

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	15.4 (先月 -33.3)
翌月予測DI	-42.9 (先月 -40.0)

商業

食料品の売上は前月比、前年比ともに、業者により増減分かれるが、増加とする業者に合っても「コロナの影響は相変わらず続いている」との声が聞かれるなど、景況感が好転した業者は見られない。先行きは売上の増加を見込む声が複数聞かれた。複数の業者から、仕入価格上昇との声。

【青果卸売市場】

販売は、前月比、前年比とも増加という。野菜は、「入荷量は昨年に比べやや増加も、価格が一昨年並みの価格で推移し、ほぼ平年並みの売上となった。今後は天候も良く作柄も良いため落ち着いた価格となりそう」という。果実は、「りんご、梨ともに引合が強く好調な販売。早生みかんも順調で、全体では入荷量1%増、価格も12%高くなった」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感悪化との声。先行きも大きな動きは見込まれていないという。

電化製品の売上は、前月比、前年比とも増加。「前月比増加の原因として季節商品の伸びがある。秋が短く、冷えが一気に来たため『寒冷地向けエアコン』が多く出ている。数年前に比べ暖房機器に需要の変化が見られ、ファンヒーターからエアコンに移行している。オール電化、自家発電などで、すべて電気で賄える商品が主流となりつつある」「昨年は消費増税があったため前年比は増加。とはいえ、依然積極的な設備投資や購買意欲の高まりは見られず、先が見通せない。今後の動向を慎重に把握、判断していきたい」という声が多かった。

OA機器の売上は、前月比、前年比とも減少との声。これには「受注は頂いているが、プロジェクターやストレージ等にメーカー欠品商品がある。まだまだ安定していない」ことも一因という。「配送費値上がり」との声も。こうした中、「グループ化や共同仕入などの協業が進んでいる感」という。

衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「コロナの影響もないではないが、回復基調。ただ、コロナ第三波も予測され、見通しは不明」という声も寄せられた。

サービス業

市内料理店からは、前月比、前年比とも増加との声。「月中は静かだったが、急な予約などが入りだした。昨年から悪かったこともあるが、前年比増加で有難い」「店の制約上GoToEatに参加できない」という声も。仕入に関し「種類が揃い出し、価格も安定してきた。松茸はダメだった」という。

市内宿泊施設の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「GoToトラベルで観光目的の宿泊は増えた。そうした部分

もあるが自社努力も大きかった」等の声。先行きに関し「GoToトラベルがあるが、この先観光シーズンは終わってしまう。コロナ第三波による移動制限なども心配」という声も。

昼神温泉の売上は、前月比増加。前年比は、概ね横ばい～増加。「GoToトラベル効果は大きい」「GoToトラベルで東京も対象に加わったほか、遠隔地への修学旅行ができない学生さんの宿泊もあり、賑やかさが戻ってきた感」「星空がらみのお客さんは多い。独自の星空企画も昨年よりは多いと感じる。こうしたお客さんをつなぎとめる工夫が必要」等の声が寄せられた。こうした中、急な宿泊客の増加による課題もある様子で、「仲居さん不足」「人員不足。短期の派遣を頼むが、人件費の高騰等で経費もかかる。従来の従業員との賃金差も課題」「お客様が来てくれるのは有難いが、団体旅行では検温しない業者もあるし、満館で営業するには不安がある」などの声が寄せられた。

タクシーの売上は、前月比増加も、前年比は減少との声。「週末はともかく、平日夜間の需要が低迷。今後もこうした状態は続きそう」という声。「コロナ禍をどう乗り切ったか。公共交通機関としてあり続けるか。行政との連携などの面で、業界全体として行動することが重要だと感じる」という声も寄せられた。

【調査先企業の声】

- 先行きの不透明感による節約ムードなのか、来客数、客単価ともに減少。
- 「来春の新卒者、複数名採用予定」「欠員補充予定」
- 県内同業にはM&Aで他業種の資本傘下に入る動きがある。協業によるシナジーを見込んでいる様子。
- 地元では商品券配布で売上が回復した事業者も多数あるが、飲食店は厳しそう。
- 「GoToトラベルの効果は大きいですが、立替金の負担が大きい」「GoToトラベルの入金があるまで資金繰りはやや厳しい」
- 市内飲食店にGoToトラベルの恩恵は少ない。

【松本自動車検査登録事務所の自動車新規登録台数（新車+中古車）前年比（3か月後方移動平均）の推移】

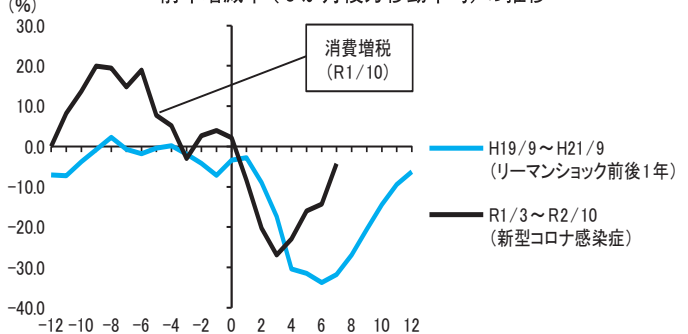
当月の松本自動車検査登録事務所の自動車新規登録台数は、新車は2,214台で、前月比マイナス19%、前年比はプラス23%。中古車は787台で前月比、前年比ともプラス3%となっている。

下図は、松本自動車検査登録事務所の自動車新規登録台数（新車+中古車）前年比の3か月後方移動平均を、リーマンショック時（H20/9）と今回のコロナ禍発生時（R2/3）の前後1年間で比べたものである。

これによると、リーマンショック時は発生直後から登録台数の前年比が低下し始めたが、今回のコロナ禍の場合は、消費増税のあった令和2年の10月頃から前年比は低下し始めており、その後の前年比のマイナスには、消費増税前に駆け込み需要があったことの影響も考えられる。

また、目下のところ今回のコロナ禍で前年比がもっとも落ち込んだのは令和2年6月のマイナス27%だが、リーマン時は平成20年6月にマイナス34%まで低下していた。

自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内 新車+中古車）前年増減率（3か月後方移動平均）の推移



（資料：松本自動車検査登録事務所）

流れ雲の目（38） 川の流れるように

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

♪でこぼこ道や 曲がりくねった道 地図さえない それもまた人生 ああ 川の流れるように ゆるやかに
いくつも 時代は過ぎて……生きることは 旅すること 終わりのない この道 移り行く季節 雪どけを待ち
ながら……♪ 皆さんご存知の美空ひばりの名曲「川の流れるように」の一節である。曲もそうだがこの歌詞の
なんと意味深いことか。私の大好きな歌だ。青空の下、天竜川の土手からゆったりと流れる川面を見ながらこの
歌を口ずさんでいる。

この世界は、時も時間も経済活動も人の気持ちも肉体も川の流れるように滔々と流れ、刻々と変化し状況が移
り変わっていく。同じ時、同じ状況は二度と戻ってこない、次から次へと状態変化し歳をとっていく。成長して
いるのか衰退しているのか判断に苦しむ場面もあるが、間違いなく限りなく大きな変化をしている。そう考える
と自分の人生に愛着を覚える、この二度と巡り会わない今日という日の一時を無駄には出来ない、大事に感謝し
ながら過ごしたいと思う。

企業も生き物であり、従来と同じことの繰り返しでは経済の川の流れるように押し流されて衰退方向を向いてしまう、
当たり前なことではあるが、昨年よりは今年、昨日よりは今日、最低でも世の中の進歩より一歩でも半歩でも前
に進まなければ現状維持すらできず、後退方向しかあり得ない。

よく言われる諺で、朝の来ない夜はないとか出口のないトンネルはないとか言い、人を勇気付ける事がある。
人間やる気になれば再起復活できるから頑張れ、必ずや出口、解決の糸口はあるので諦めずに前に進めと己を鼓舞
してガムシャラに進めということも非常に大事で、重要なことではある。

しかし企業経営はそれだけで本当に業績が良くなるのであろうか？精神論は大事で、何ととっても人間の気持ち
の持ち様が大きく変わるので必要なことではあるが、それだけだと努力が実になるかどうか、疲弊するだけで
空回りしているだけということもあり得る。

同じ努力するのでも、何処に向かって、何に、何のために、何をどうするのだ、いつ迄に。この辺のことを頭
に浮かべ、ある目標なり目的を持って行かないと結果は出てこない。

川の流れる間は間違いなく高い所から低い方向へと流れていく、傾斜が大きければ大きい程流れは細く速くなるし
平坦地では緩やかで横に広がる。これは子供でもわかる真理である。

経済の川はどう流れるのか、非常に複雑に絡まりながら流れるので判断に苦しむが、確実に言えることは常に
新陳代謝が起り、状態が変化し、物であれば多品種少量生産で製品寿命は短くなっている、市場の要求品質は
厳しくなり、ニーズは多様化している。

世の中が進歩して経済発展してくればほとんどの場合生産性が上がり給料は増加し物価も上昇してくる、経済
活動においては前年と同じ稼ぎでは出費が増加するので生活は必ずや後退する、経済の川の流れるの速さに流され
ないためには前年と同じ稼ぎでは押し流されてしまう、最低でもその流れ以上に進まない現状維持すらできな
くなってしまふ。

俺は長年こうやって来たんだ、だからこれからもこのやり方で行くんだという社長もいると思うが、従来のや
り方をうまく活かし、そこに現代の知恵を投入して改善改革をしていかないと確実に時代の川に押し流されてし
まふ。古い従来の物を捨てるということではない。良いところ、特徴は持続して生かしながらも現代の要求に合

わせた方法ややり方に工夫して改善、改革、新機能付加していかないと現状維持すら難しくなるということなのだ。

コロナ禍で全世界が大変なことになっている、しかしこの状況下で大きく利益を上げている企業も多々ある、在宅勤務をはじめ勤務形態の変化によって在宅時間の増加で需要増の市場もある。宅配ビジネスも大きく増加しておりその影響で非常に忙しい業種もある。

マスクをして客先との名刺交換では顔がよく見えないので覚えてもらえず営業効果がない為、マスクに自分の顔写真や会社名、氏名を印刷してくれるビジネスも出てきた。

経済の川の流れは、地球環境の変化によっても大きく影響を受けるし、何がどうなってどんな風に変化するのか想像できない事態も起こり得る世の中である。

そのあらゆる変化を起こす経済の川の流れに身を置き、如何に流されず溺れることなく泳ぎ切るのが経営者の手腕と言わざるを得ない。

時代という川の流れに流されることなく過去の良きところを踏襲し、今風にアレンジしながら先々の方向性を見極めてある目標、方向を決めて勇気を持って前進する。それが経営者の生き甲斐になることが最高だと思う。

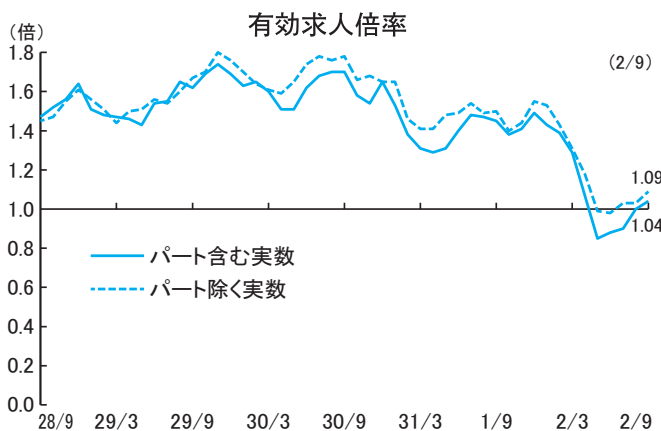
経営者の仕事は正しい方法で利益を生み出すことだ、社員に仕事の喜びを教え安定した生活を与えること。常に時代の先を読み経済の川の流れを見ながら会社の舵を取り、時代の流れを乗り越え経営を継続することに尽きる。多様化し益々難しい経済環境の中ではあるが、その川を上手に漕ぐことの醍醐味を味わい生き甲斐にすることができれば社長冥利に尽きるのではないか。苦しいこの環境の中、生き残りを賭けて知恵を絞り全社一丸となり明日へ向けて皆様が益々ご健闘されることを願っています。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

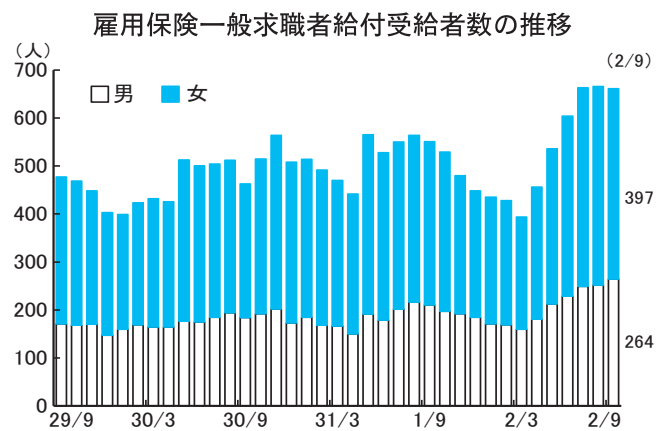
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見しお話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



令和2年9月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.04倍と、前月から0.04ポイント上昇。パートを除く実数は1.09倍で、前月から0.06ポイント上昇している。



令和2年9月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は12人増加、女性は17人減少。全体では661人で、前月から5人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

首長が語る、私の故郷 ～ 喬木村 市瀬直史 村長 ～

天竜川の流れが生み出した河岸段丘上にある喬木村。児童文学者 椋 鳩十 が生まれ育ち、県内屈指のイチゴの産地で四季を通じて果物狩りも楽しむことができるこの村は、明治8年の発足以来、分村も合併もなく今日まで歴史を重ねてきた。一方、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を控え、同村の市瀬直史村長はこの大きな環境変化を「一大チャンスと捉える」と語る。

今回は、平成26年から現職を務める市瀬村長に、これまでの、そしてこれからの施策に込めた村への思いを、ご自身のエピソードなども交えて語っていただいた。（インタビュアー：しんきん南信州地域研究所）

《生粋の喬木村民》

●村長に就任されて6年半となります。村長になるまでの経歴、村への思い、また村長のモットーについてお聞かせください。

市瀬村長：私自身、喬木村で生まれ育ち、大学時代の4年間だけ村外へ出て、そこで政治学や法律を専攻し、様々なコミュニティのあり方について学びました。当時の就職活動は、ゼミの先生の推薦状を持って企業を回ることが主流でしたが、私は小さなコミュニティで仕事をする事で自分が思い描く理想像を追い求めたいと考え、故郷へ帰ってくる道を選びました。ゼミの先生からは、大学卒業の際に推薦状を断ってまで帰ることに文句を言われましたが、そのとき私は「村長になるために故郷へ帰ります」と言っただけです(笑)。

村長の期間も合わせて、役場にお世話になって今年で40年になります。この間、生まれ育った地域が段々に疲弊していく様子を目の当たりにして、何とかしなければいけないとの思いを持って職務に当たってきました。

モットーというほどのものはありませんが、私は歴史物が好きということもあって、吉田松陰の「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし」という言葉を大切にしています。この山に囲まれた地域に住んでいる方が、大きな夢を持って幸せ

な生活を送るために村として何ができるのか。それをいつも考えて、今まで取り組んできました。



(市瀬村長)

《「この村が将来にわたって自立して残っていくために」という問いから生まれた施策》

●これまでの村政運営で、ICT教育の実施、村議会の夜間休日議会、コミュニティバスの運行開始といった、特色ある施策をしてこられました。どのような思いで取り組まれたのでしょうか。

市瀬村長：今挙げていただいた取り組みは、全て「この村が将来にわたって自立して残っていくために何が必要か」という発想の中から生まれたものだと思います。

喬木村では6年前からICT教育の取り組みを進めており、既に児童生徒1人1台のPC環境を整えています。この取り組みを始めたのには、これからの時代にICTが必要だということ、もう一つは、都会と比較したとき地方に足りないものは何かを考えたときに、

子供の教育環境を整備すれば都会と遜色ない学力を身につけられるのではないか、との発想からでした。子供の教育に支障がなくなることで、子育て世代が地方へ移住・定住しやすくなることも期待していました。

ICT教育はコロナ禍で注目を集めることになりましたが、地域内にはICT教育に詳しくない先生もいらっしゃいます。経験のある喬木村が中心になってノウハウを共有し、飯伊地域全体をICT教育の先進地域として宣伝できたら、と思っています。今の小学6年生はこの取り組みを始めたとき小学1年生でしたが、とても意欲的な子供たちで今後は非常に楽しみです。



(ICTを活用した授業の様子)

夜間休日議会は村議会が主体となって取り組まれたもので、行政は協力する立場で取り組まさせていただきましたが、前提として若い方達の自治会や消防団への加入率が下がっている現状があります。議会は村の一番大切な立法機関ですが、コミュニティへの参加者が減少していくと議員の後継者が育たないわけで、これは村全体としても非常に困ってしまいます。そこで、社会的要因で参加できないのであれば参加しやすい時間にして少しでも障害を減らそう、という村議会の考え方に行政も共鳴して始まったのが夜間休日議会なのです。

コミュニティバスの運行は、長寿化の進展で生じ

る様々な問題への対応策です。オンデマンドで高齢者の移動手段を用意することに主眼がありますが、加えて高齢者のコミュニケーションの場を作れたら、との思いも込められています。採算については考えず、移動手段のない方でも社会に出てきてほしい、という思いで取り組んでいます。

これらの取り組みを通じて、喬木村に住んでいる皆さんが、「取り立てて自慢できるほどのものはないかもしれないけれど、この村に住んでいて良かった」と思ってもらえるような村づくりを、地道にやっていきたいと考えています。

《リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通は、「可能性を秘めている」》

●これらの取り組み以外で、特に思い入れのある出来事などはありますか。

市瀬村長：私は企画財政課長のときに役場を退職し村長に立候補したのですが、その一番のきっかけとなったのは、その年にリニア中央新幹線のルートが公表されたことでした。当時、三遠南信自動車道の工事も進んでおり、この地域が大きく変わることがはっきりと見えてきましたが、「今までとは違う村づくりをしていかないと、この村はただ過疎の村になってしまう。しかし、やり方次第では劇的に変わる可能性を秘めている」と考え、挑戦してみようと思いました。今この職に就いているのも、リニア、三遠南信自動車道への期待があつてこそだと思っていますし、思い入れも強くありますね。

《リニア・三遠南信時代に向け、飯田下伊那地域の結束を》

●役場職員の立場から、政治の世界に入られることの難しさ、戸惑いはありませんでしたか。

市瀬村長：私は父親が村会議員、祖父が村の助役をやっていたので、食卓を囲みながら政治談議を常にしていた思い出があります。その影響から政治への思いが強かったせいか、政治の側に立っても違和感はなく、むしろ役場の職員としては異端児だったんだろうなと思っています（笑）。ただ村への思いはいくら強くても、長く村長をしていると自分の凝り固まった発想で村を運営することになりかねないので、あまり（村長の席に）長居をしてはいけないとの考えは常に持っています。だから、在任中にこれだけはやり遂げたいという思いで仕事をしていると、いつも時間が足りないですね。

●今、「これだけはやり遂げたい」というお話がありました。その点についてお聞かせいただけますか。

市瀬村長：飯伊地域は、長野県の中でも財政力、経済基盤が弱い地域です。リニアが開通したときにこの地域が長野県の玄関口として力を発揮するには、（飯田下伊那の）14市町村が一つになって取り組んでいく必要があると思っています。住民の皆さんは喬木村だろうと他の市町村だろうと関係なく往来しているわけですから、行政も同じように一体となって地域全体が潤うような構想をまとめたいと思っています。もちろん、それぞれの市町村の首長には強い思いがありますから、一つにまとまるということは簡単なことではないですが、リニア開通まで時間が限られている中、取り組まなければならない課題であると思っています。

現在の具体的な取り組みとして、北部5町村（松川町、高森町、喬木村、豊丘村、大鹿村）の中でリニア開通に備えた各町村の役割分担の調整について検討を始めています。この地域で開発できる土地は限られていますので、県とも連携して「長野県駅にはこれがあ

る」というような、人が降りてくれる仕組みを作らないといけないと思っていますし、その計画にはしっかりと関わっていきたくて考えています。

《コロナ禍にあっても、あるいはコロナ禍にあるからこそできる前向きな取り組みを、応援したい》

●今年は新型コロナウイルスへの対応が最重要課題となり、喬木村でも来シーズンのイチゴ狩りの開園を見合わせるとの報道がありました。コロナ対策も含めて、今後の村の取り組みについてお聞かせください。

市瀬村長：日本中どこも同じだと思いますが、経済状況が悪化したときに住民にとって一番困るのは、雇用への悪影響だと思います。住民の給与が下がる、最悪の場合は職がなくなってしまう、こうしたことには十分注視して支援を行いたいと思っています。9月から販売している村民向けのプレミアム付商品券（※現在は販売終了）は好評をいただき、地元商店街の方々にも喜んでいただいています。事業者向けには村独自の持続化給付金の支給を行って、事業の継続を少しでも下支えしたいと考えています。

イチゴ狩りの開園見合わせについては大変残念ではありますが、イチゴは他の果物狩りと違い、収穫して直接口に入れるため感染のリスクが高くなってしまう。万が一にも感染者が出てしまえば、今後数年間にわたってイチゴ狩りに影響が出てしまいますので、農家の皆さんも大変苦渋の決断だったと思います。イチゴは観光向けと販売向けで植え方が違うので、来シーズンは販売向けに集中できるよう今から準備を進めていると聞いています。

イチゴでは、喬木村のブランドが認知されてきたお陰で、長崎県から新規就農の方がIターンしてくれた事例がありました。その方は、大島区という、村の中

でも最奥の地区で夏イチゴの栽培に挑戦しています。高価格帯の商品なのですが、今年はインターネット販売で完売、来年さらに規模を拡大して収穫量を増やす予定と聞いています。それに合わせて若い従業員を採用する計画もあるとのこと村も大変期待しています。大島区は、今は道路環境に恵まれない地区ですが、リニア駅からは、ほんの20分ほどの場所です。そこに注目される産業が育てば面白いな、という思いもあります。

コロナ禍でほとんどのイベントが中止になってしまったことは確かにマイナスですが、これを機にオンライン販売など、新たなチャレンジをする事業者の方も大勢います。村としても、この時期だからこそできる前向きな取り組みには、しっかりとバックアップをさせてもらいたいと思っています。

ICT教育の進展もそうですが、コロナ禍だからこそできる取り組みも多くあるはずです。今をチャンスと捉えて前向きに取り組むたいと思っています。

もちろん、イチゴ狩りは喬木村の春の観光の目玉ですし、ブランドを守っていくためにとても大事なものですから、少しでも早く再開させたいという思いは農家の皆さんともお話ししています。

《村民自身が喬木村の魅力。人情味のある風土は、これからも選ばれていくと信じています》

●最後に、市瀬村長が考える喬木村の魅力をお聞かせください。

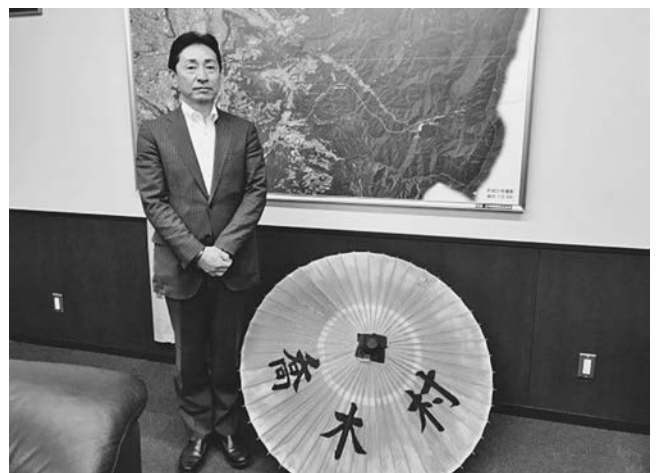
市瀬村長：一番にお話ししたいのは、喬木村民の皆さんはとにかく優しい、いい人たちということです。村で行う様々な活動に、いつも批判よりも多くの応援の言葉をいただき、大きなやりがいを感じて仕事をさせていただいています。また、村民の皆さんはそれぞれ自尊心、自立心が強く、施設園芸の分野で言えば、イ

チゴだけでなくキュウリなどでも、先進的な取り組みに果敢にチャレンジして成功につなげている方が数多くおられます。「喬木村といえばこれだ！」というような大きな観光資源、産業はないですが、村民一人一人が輝いている、ということが一番のアピールポイントではないかと思っています。

ですから、村としても精一杯の支援をして、村民の皆さんが安心・安全で平和に暮らせるような仕組みを作っていかななくてはならない。それに加えて、これだけ魅力のある場所ですから、多くの方たちに認知して選んでいただき、暮らしていただいて、南信州の良さを満喫してもらいたいと思っています。ただ、都市部の方に興味を持ってもらったとしても受け入れる先がなければ意味がありません。現状では移住をお断りする場合もある状況ですので、リニアや三遠南信自動車道の開通を見据えて、受け入れるための住宅整備は今後進めていきたいと思っています。

自然環境の良いところは日本中にありますが、困っている人がいたら助けてくれる、そんな人情味のある喬木村の風土というのは、これからの時代にも選ばれていくのではないかと信じています。

(インタビュー：令和2年10月15日)



(喬木村の伝統の技、阿島傘)